

T B A 審判・T O委員会

**ルールテスト問題集
問題のみ**

注意：解答は必ず競技規則でご確認ください。

第1～3章

NO	問 題	正解
1	ノー・チャージ・セミサークルのラインは、ノー・チャージ・セミサークル・エリアの一部である。	
2	試合中、負傷者を保護する必要がある場合、審判は、ボールがデッドにならないとゲームを止めてはならない。	
3	プレイヤーが負傷したとき、そのチームのだれかがチーム・ベンチ・エリアから出てコートに入ってきたが、プレイを続行できそうだったので、そのままプレイを続けさせた。	
4	コーチは、ゲーム開始予定時刻の5分以上前までに、スコアシートに記入されたチーム・メンバーの氏名・番号とコーチの氏名（アシスタント・コーチをおくときはその氏名）を確認し、最初に出場する5人のプレイヤーチームAのコーチが先にこの確認をする。	
5	コーチあるいはアシスタント・コーチのうち1人だけは、ゲーム中、チーム・ベンチ・エリア内で立ちつづけることが認められる。	
6	アシスタント・コーチは、ゲーム中、審判に対してコーチと同時でなければ話しかけたり等のはたらきかけをしてもよい。	
7	1チームが攻撃するバスケットを「自チームのバスケット」といい、防御するバスケットを「相手チームのバスケット」という。	
8	フリースロー・ラインは、エンド・ラインと平行で、エンド・ラインの内側からフリースロー・ラインの遠いほうの縁までの距離は5.80mとし、ラインの長さは3.60mとする。フリースロー・ラインの中央は両エンド・ラインの中央を結ぶ線上にあるものとする。	
9	交代要員は審判がコートに招き入れたときにプレイヤーとなり、プレイヤーは審判がその交代要員をコートに招き入れたときに交代要員となる。タイム・アウトあるいはプレイのインタヴァルの間に交代するときも、同様である。	
10	パンツの色は、かならずシャツと同じ色でなければならない。	
11	パンツの長さはひざ上までとする。ひざ頭にかかってしまう長さのパンツは、公式大会のユニフォームとしては認められない。	
12	チーム・メンバーは、ユニフォームの前と背中の見えやすい位置に、ユニフォームの色とはっきりと区別できる単色の番号をつける。番号は審判とスコアラーにはっきりとわからなければならない。	
13	プレイヤーは、シャツからはみ出してしまう上半身用および腕用のサポーター用のものを着用してはならない。	
14	負傷したプレイヤー、出血したり外傷を負ったりしたプレイヤーあるいは手当てを受けたプレイヤーはすみやかに交代しなければならないが、そのプレイヤーの交代を知らせるためにスコアラーが合図器具を鳴らすよりも前にどちらかのチームがタイム・アウトを請求しそのタイム・アウトの間に手当てが終わったときは、引きつづきプレイをすることができる。	
15	ユニフォームの番号が4番のプレイヤーが、キャプテン（コート上での代表者）である。	
16	キャプテンは、ゲーム中いつでも審判に説明を求めることができる。	
17	同じチーム内に「0」と「00」の番号の選手が同時にいてはいけない。	
18	チーム・ベンチ・エリアを示すラインは、センターラインから5mのところからサイドラインと直角に2m以上ひく。	
19	スコアシートに氏名・番号が記載されていても、試合開始に遅刻した選手は出場することができない。	
20	選手が身に付けることの出来る用具・器具は競技規則では特に定められてはいない。	
第4章		
NO	問 題	正解
21	スロー・インの場合、スロー・インをするプレイヤーにボールが与えられたときはボールの状態はデッドである。	
22	ジャンプボールについて、ジャンパーはトス・アップされたボールを片手または両手でタップ、ただしボールが最高点に達したあとタップしてもよい。	

23	ショットの動作について、空中にいるシューターのショットの動作はボールが手から離れたあと、そのプレイヤーの片足が床に触れるまで続く。	
24	スロー・インについて、コートを踏んだままボールをスロー・インすることはしてはいけない。	
25	タイム・アウトについて、1チームは前半に2回、後半に3回のタイム・アウトを取ることができる。第4ピリオドの最後2分間には2回までしかタイム・アウトをとることはできない。	
26	ファウルが各ピリオド、各延長時限の終了と同時に起こったとき、その罰則としてフリースローが含まれている場合はそのピリオド終了後ただちに行う。	
27	各チーム、各延長時限には前半と同じバスケットを攻撃する	
28	ボールが審判に触れたときはその審判のいる位置の床に触れたものとする。	
29	両チームのプレイヤーが同時に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになったときはジャンプ・ボール・シチュエーションになる。	
30	誤って自チームのバスケットにボールを入れてしまったフィールドゴールは相手チームに2点が与えられ相手チームのキャプテンの得点として認められる。	
31	審判はスロー・インするプレイヤーにボールを直接手渡すか、アウト・オブ・バウンズの位置にボールを置きスロー・インするプレイヤーにボールを与える。	
32	審判がスロー・インするプレイヤーから4 m以上離れなくてはならない。	
33	競技時間が残り0.2秒あるいは0.1秒の時にスロー・インまたはフリースローでゲームを再開するときは、スロー・インされたボールまたはフリースローが不成功でリバウンドされたボールに対しては直接ダンクをしなければ得点は認めない。	
34	第4ピリオドの最後の2分間にタイム・アウトが認められ、タイム・アウトを認められたチームにスロー・インが与えられた場合はフロント・コートのスロー・イン・ラインのアウト・オブ・バウンズから行うことができるが、各延長時は常時適用されてる。	
35	コートのまわりにゆとりがなく障害物から境界線までの距離が2 m未満のとき、スロー・インをするプレイヤーから1m以内に近づくことはしてはならない。	
36	ボールをこぶしでたたくことはヴァイオレーションである。	
37	タイム・アウトを請求できるのはコーチ、アシスタントコーチだけである。	
38	交代の申し出は、スコアラーが審判に知らせるために合図器具を鳴らした後でも取り消すことはできる。	
39	ジャンプ・ボール規定で1チームの2人のプレイヤーがサークルのまわりになり合わせて位置したときは、相手チームから要望があれば、一方の位置は譲らなければならない。	
40	ゲーム開始時刻から15分が過ぎてもプレイをする用意の整ったプレイヤーが5人そろわなければ没収になる。	

第5章

NO	問 題	正解
41	両チームのプレイヤーがボールをしっかりとつかんだまま、どちらか一方あるいは両方のプレイヤーがアウト・オブ・バウンズになってしまった場合には、ジャンプ・ボールシチュエーションになる。	
42	A4がドリブルを終えた後、故意にボールを相手に当ててボールをリカバーした。その後、再びドリブルができる。	
43	制限区域内にいるプレイヤーは、制限区域の外の床に片足をつけたら、制限区域から出たことになる。	
44	ドリブルでボールをバックコートからフロントコートへ進めようとしているときは、ドリブラーの片足とボールがフロントコートに触れたら、フロントコートに進められることになる。	

45	8秒ルールの秒数は、審判が独自の責任でかぞえる。したがって、ショット・クロックの表示と審判の数える秒数が一致しないこともある。このような場合は、審判の判定が優先される。	
46	A4がショットし、そのボールがリングに触れた後、B5がリバウンドのボールをコントロールした直後にB5がトラヴェリングをした。チームAのショット・クロックは、14秒にリ	
47	境界線の外にいる B4 がコート内でボールを持っている A5 の体に触れた。審判は B4 のヴァイオレイションを宣した。	
48	ドリブルを終える時に、ボールをファンブルした。そのボールをドリブルして拾いなおした。審判はヴァイオレイションを宣した。	
49	A1 からパスを受けた A4 がボールをファンブルした。その直後に A4 はボールを拾い直し、ドリブルを始めた。審判はヴァイオレイションを宣した。	
50	コート内でライブのボールをコントロールしたプレイヤーが、バック・ボードをねらってボールを 投げてバック・ボードに触れさせ、そののち、他のプレイヤーが触れないうちに、ふたたび、そのボールに触れる事は、ドリブルが始まった事になる。	
51	空中でボールを受け取って最初に右足が床に触れた。その右足で再びジャンプし、ボールを持った まま右足から床におり、パスを出した後、左足が床に触れた。審判はヴァイオレイションを宣した。	
52	ボールを持ったプレイヤーが、床に倒れたり、横たわったり、座り込んだりしているところからボールを持ったまま、転がったり、立ち上がった後もトラベリングにはならない。	
53	3 秒ルールは、ボールがバック・コート内でチーム・コントロールされているときにも適用される。	
54	コート内でライブのボールを持っているプレイヤーは、相手チームのプレイヤーが1mより近い正当な位置で積極的に防御しているとき、近接して防御されていることになる。つまり、防御側プレイヤーが単に1mより近い位置にいるだけでは、5秒の制限は適用されない。	
55	ボールがフロント・コートに両足に触れているそのチームのプレイヤー(攻撃側プレイヤー)に触れたとき、ボールがフロント・コートに進められたことになるが、ボールがフロント・コートに触れている相手チームのプレイヤー(防御側プレイヤー)や審判に触れたときやボールがフロント・コートに進められたことにはならない。	
56	ボールがバスケットにはさまったりのったりしてジャンプ・ボール・シチュエーションになったとき、それまでボールをコントロールしていたチームに引きつぎオルタネイティング・ポジション・ルールによるスロー・インが与えられる場合は、ボールがリングに触れても 24 秒計はリセットされず、24 秒は継続してはかる。	
57	A6 がショットしたボールが空中にある間に 24 秒の合図が鳴り、そののち B4 が A6 にパーソナル・ファウルをした。ファウルののちボールがバスケットに入らずリングにも触れなかったので、審判は 24 秒ルールのヴァイオレイションが成立したとみなし、そのファウルはなかったものとした。	
58	Aチームのフロント・コートからジャンプして空中でボールをあらたにチーム・コントロールした A1がそのボールを持ったままAチームのバック・コートに着地した。審判はボールをバック・コートに返すヴァイオレイションを宣した。	
59	B6 のショットでボールがリングに触れたあとに A4 がバックボードをたたき、そのボールがバスケットに入ることを妨げたので審判はインタフェアを宣した。	
60	B6 の最後のフリースローでボールがリングに触れたあとに A4 がバックボードをたたき、そのボールがバスケットに入ることを妨げたので審判はインタフェアを宣した。罰則は B チームに1点が与 えられ、さらに A4 にテクニカル・ファウルが宣せられる。	

第 6 章

NO	問 題	正解
61	ファウルとは、規則に対する違反のうち、相手チームとの間の不当なからだの触れ合いおよびスポーツマンらしくない行為をいう。	
62	プレイヤーがコート上で普通に両足を開いて位置を占めたとき、そのプレイヤーが占めている位置とその真上の空間をシリンダーという。シリンダーの範囲は、前は手を普通に上げたときの手のひらの垂直面、うしろはかかとの垂直面、両脇は腕と脚の外側の垂直面である。	
63	自分のシリンダーからはずれた空間で、すでに独自のシリンダーを占めている相手チームのプレイヤーと触れ合いを起こしたときは、自分のシリンダーからはずれているプレイヤーにその触れ合いの責任がある。	
64	防御側プレイヤーが相手チームのプレイヤーに向かい合い、両足を普通に広げて床につけたとき、その防御側プレイヤーは最初の正当な防御の位置を占めたことになる。これを、リーガル・ガーディング・ポジションという。	
65	ボールをコントロールしているプレイヤーは、いつでも当然防御させていることを予測していなければならないので、自分の進む方向に相手チームのプレイヤーがどれだけすばやく防御の位置を占めたとしても、止まったり、方向を変えたりして、からだの触れ合いを避ける用意をしていなければならない。	
66	ボールをコントロールしていないプレイヤーを防御するプレイヤーは動いている相手チームのプレイヤーが止まったり、方向を変えたりして触れ合いを避けることができないほど、急にまたは近くに位置を占めてはならない。	

67	プレイヤーは、空中にいる相手チームのプレイヤーの下りるコースに入って触れ合いを起こしてはならない。空中にいるプレイヤーの足元に入って触れ合いを起こすことは、通常のパーソナル・ファウルである。	
68	次の2つの条件を同時に満たしているときに起こるからだの触れ合いは、規則で許されるスクリーン（リーガル・スクリーン）である。 ①止まっていて、シリンダー内でからだの触れ合いが起こる。 ②両足が床についていてからだの触れ合いが起こる。	
69	チャージングとは、ボールを持っていてもいなくても、無理に進行して相手チームのプレイヤーのトルソーに突き当たったり、押しのけたりする不当なからだの触れ合いをいう。	
70	触れ合いが起こった時に片足あるいは両足がノー・チャージ・セミサークルのラインに触れていた時は、ノー・チャージ・セミサークル・ルールが適用される。	
71	A2 がバック・ボードの裏側からノー・チャージ・セミサークル・エリアに向かってドライブした。両足が完全にノー・チャージ・セミサークル・エリア内で、正当な防御の位置を占めていた B4 とからだの触れ合いが起こった。審判は A2 にチャージングを宣さなかった。	
72	相手チームのプレイヤーがボールを持っていてもいなくても、防御側プレイヤーが突き出した手や伸ばした腕で相手に触れて相手の動きを妨げることは、イリーガル・ユース・オブ・ハンズ・オブ・ファウルである。	
73	A3 がショットしたボールがリングに当たった。そのリバウンド・ボールを A5 と B5 が競り合った結果、審判は A5 と B5 にダブル・ファウルを宣した。その際、A5 と B5 のそれぞれのファウルを記録し、A チームのスロー・インでゲームを再開する。	
74	コーチにテクニカル・ファウルが宣せられた場合は、そのコーチに1個のテクニカル・ファウルが記録される。このファウルは、チーム・ファウルにかぞえる。	
75	審判がプレイヤーに注意や警告を与える場合は、どのような事柄に関するものであっても、当該プレイヤーとそのチームのコーチの両者に与えられたときに、はじめて正式に注意・警告 (Official Warning) を与えたことになる。正式な注意や警告は、通常はゲームクロックが止まっているときに与え、当該チームのすべてのプレイヤーに適用される。	
76	第4ピリオド残り1分30秒でスロー・インが行われるとき、スロー・インするプレイヤーの手からボールが離れた後に、防御側プレイヤーがパーソナル・ファウルを起こした場合は、そのファウルはアンスポーツマン・ライク・ファウルになる。	
77	1プレイヤーにアンスポーツマンライク・ファウルおよびテクニカル・ファウルが2回記録された時は、そのプレイヤーは失格・退場になる。	
78	ディスクオリファイング・ファウルを宣せられた者、あるいはディスクオリファイング・ファウル以外でも規則に定められた規定により失格・退場させられた者は、ゲームが終わるまで自チームの更衣室（ロッカー・ルーム）にいるかコートのある建物から立ち去るしなければならない。	
79	ファイティングの規定は、コート上やコート周囲で暴力行為が起こったときや起こりそうなときに、チーム・ベンチ・エリアから出たチーム・ベンチ・パーソネルに適用される。	
80	ファイティングの規定によるディスクオリファイング・ファウルは、チーム・ファウルにかぞえない。	

第7章

NO	問 題	正解
81	プレイヤーに5回のファウルを宣するのは『主審』である。	
82	5回のファウルをしたA3が、5回目のファウルを宣せられずに一度コートから退いた後、再び出場した。審判は、Aチームのコーチにテクニカル・ファウルを宣した。	
83	スコアが70対70で第4ピリオドを終了した為、延長を行う事になった。第4ピリオドで両チームのチーム・ファウルは5回を超えていたが、延長時限はチーム・ファウルを新たにかぞえる。	
84	プレイのインタヴァル中に起こったチーム・メンバーのファウルは、個人ファウルには数えるが、プレイのインタヴァル中なので、次のピリオドのチーム・ファウルには数えられない。	
85	規則違反（ファウルやヴァイオレイション）が宣せられてゲーム・クロックが止められている間に新たに別のファウルが宣せられた場合は、特別な処置をする。その際、ヴァイオレイション、ファウルが起こった順序に従って、等しい重さの罰則を相殺する。	
86	B3 にアンスポーツマンライク・ファウルが宣せられた。その判定に不服を大きく表したチームAの選手にテクニカル・ファウルが宣せられた。審判は罰則の重さを相殺し、それまでボールを保持していたチームAにスロー・インのボールを与え、ゲームを再開した。	
87	2ポイントショットの動作中の A3 に B1 がパーソナル・ファウルをした。A3 のショットは不成功だった。その後、A3 が B1 に対してスポーツマンらしくない行為をしたため、審判は A3 にテクニカル・ファウルを宣した。この場合、A3 に2個のフリースローが与えられ、B チームには1個のフリースローが与えられ、B チームのスロー・インでゲームを再開させる。	

88	両チームに科せられる重さの等しい罰則を相殺していった後に、適用する罰則が残らない場合には すべて、ジャンプ・ボール・シュチュエーションによりゲームを再開する。	
89	B5 にテクニカル・ファウルが宣せられた。このとき A チームにテクニカル・ファウルの罰則のフリースローが与えられる場合、どのチーム・メンバーがフリースロー・シューターとなってもよいが、この場合、ゲーム・キャプテンがフリースロー・シューターを指定する。	
90	フリースローが行われるとき、リバウンドの位置を占めていないプレイヤーは、ボールがリングに触れるか、フリースローが終わるまでは、フリースロー・ラインの延長上より後方でスリーポイント・ラインの外側にいなければならない。	
91	フリースロー・シューターB1が最後のフリースローを行うとき、シューターの手からボールが離れる前にB5が制限区域に入った。その直後、シューターの手からボールが離れ、フリースローは成功したので審判はエンド・ラインから A チームのスロー・インでゲームを再開させた。	
92	ボールをチーム・コントロールしているかまたはスロー・インが与えられることになっていたチームのプレイヤーがパーソナル・ファウルをしたときは、チームファウルの罰則は適用されない。	
93	フリースロー・シューターA1が最後のフリースローを行うとき、シューターの手からボールが離れる前にB3が制限区域に入った。その直後、A5も制限区域に入った。その後、シューターの手からボールが離れ、フリースローは不成功だった。審判は両チームのヴァイオレーションを宣しジャンプ・ボール・シュチュエーションとした。	
94	審判が誤りに気づき、審判がゲームを止めるまでの間に、認められた得点、経過時間、宣せられた ファウルやそのほか起こったすべてのことは無効であり、取り消される。	
95	A1 が5回目のファウルを宣せられ退場したが、処置の訂正により、A1 にフリースローが与えられることになったので、再びコートに戻り、訂正のフリースローを行わせた。	
96	B チームのチーム・ファウルの罰則により、A2 がフリースローを行った。2投目のショットは不成功となり、そのリバウンド・ボールを B5 がコントロールした。その直後に審判が与えてはいけないフリースローを A2 に与えていた事に気が付きゲームを止めた。処置は、A2 のフリースローは取り消され、特別な場合の処置の訂正が適用され、ジャンプ・ボール・シュチュエーションとなる。	
97	A チームに与えるべきフリースローを与えず、A チームのスロー・インでゲームを再開してしまった。その後、A1がショットをし、そのリバウンド・ボールを A4 がとったので、審判はゲームを止め、Aチームに訂正のフリースローを与え、ゲームは通常のフリースローのあとと同じように再開させた。	
98	21 B 4がA 4にファウル（パーソナル・ファウル）をした。チームBのチーム・ファウルはそのピリオド4回をこえていたが、審判が誤って、A 4にフリースローを与えないでチームAのスロー・インでゲームを再開してしまった。審判は、スロー・インのボールを受け取ったA 5からのパスをB 6がインターセプトし、B 6からのパスを受けてB 7がショットをしたが成功せず、そのリバウンドのボールをA 7がコントロールしたとき、処置の誤りに気がついてゲームを止めた。この場合、A 4が訂正のフリースローを行い、ゲームはチームAのスロー・インで再開される。	
99	B 4がA 4にファウル（パーソナル・ファウル）をした。チームBのチーム・ファウルはそのピリオド4回をこえていたが、審判が誤って、A 4にフリースローを与えないでチームAのスロー・インでゲームを再開してしまった。審判は、スロー・インのボールを受け取ったA 5がドリブルをしてそのままショットを成功させたとき、処置の誤りに気がついてゲームを止めた。この場合、A 5の得点は認められ、そのうちA 4が訂正のフリースローを行い、ゲームは通常のフリースローのあとと同じように再開される。	
100	ボールをコントロールしている A1 に対し B2 が触れ合いを起こし、アンスポーツマンライク・ファウルが宣せられた。その罰則により、フリースローを行い 1 投目が成功した。2 投目を行う前に フリースロー・シューターが A2 であることに審判が気付いた。処置は、A1の 1 投目は取り消され、正しいフリースロー・シューターA2 のフリースローも取り消される。センター・ラインからのスロー・インも取り消され、フリースロー・ラインの延長上の位置から、B チームのスロー・インによってゲームを再開する。	

第8章

NO	問 題	正解
101	タイマーはタイムアウトの時間をはかる時、60秒が経過した時に1度だけ合図器具を鳴らせばよい。	
102	ジャンプボールの時、トスアップされたボールが最高点に達してからはじめてジャンパーがボールをタップした時にゲームクロックを動かし始める。	
103	ゲーム終了後、主審がスコアシートを承認しサインをしたときに、審判とゲームの関係が終了する。	
104	スローインの時、ショット・クロック・オペレーターは、スローインされたボールをコート内のプレイヤーがコントロールした時に、ショットクロックを動かし始める。	
105	審判が判定を下す権限は、ゲーム開始予定時刻の15分前から始まる。	

106	審判が判定を下す権限は、スコアシートにサインをした時に終わる	
107	ゲームが没収された場合、主審は、サインをする前に、そのできごとをスコアシートの裏面に記録しなければならない。	
108	フィールドゴールが成功した後にボールが遠くへ転がって行ってしまったときは、審判は原則として笛を鳴らしてゲームクロックを止める。	
109	タイマーは、第1ピリオドおよび第3ピリオドが始まる3分前と1分30秒前と30秒前に合図器具を鳴らす	
110	第1ピリオド以外の各ピリオド(各延長時限も含める)を始めるスローイン始める時に、主審がプレーヤーにボールを与えなければならない。	
111	ショットクロックの合図が鳴ると、ボールが必ずデッドになる。	
112	テーブル・オフィシャルズは、スコアラー、タイマーおよびショットクロックオペレーター各1人とする。	
113	審判の一人が負傷のため審判を続けられなくなり、そのうち5分を経過してもその審判が任務を遂行できない場合はゲームを再開する。	
114	スコアラーには交代の合図をする任務もある。	
115	二人の審判がヴァイオレーションとファールを同時に鳴らした場合、必ずファールの方が優先される。	
116	審判の判定や決定は最終的なものであり、抗議したり無視したりすることはできない。	
117	ショット・クロック・オペレーターは、ショットかパスかにかかわらず、ボールがリングに触れたときには、ショットクロックをリセットしなければならない。	
118	スローインのとき、スローインされたボールがコート内のプレーヤーに触れる前にリングに触れた場合も、ショット・クロック・オペレーターはショットクロックをリセットする。	
119	スコアラーはポゼッションの表示器具を操作しなければならない。第1ピリオドを始めるジャンプボールのあと、最初にコート内でボールに触れたチームの相手チームが攻撃する方向をポゼッション・アローで示す。	
120	ボールがライブの時スコアラーが誤って合図器具を鳴らしてしまった時、一方のチームが著しく不利になると判断したときは、審判はゲームを止めて良い。ただしこの時にタイムアウトや交代は認められない。	

過去の問題より(いろいろな章からの出題です)

NO	問 題	正解
121	第1ピリオドの競技時間の開始は、ジャンパーがタップしたボールが、ジャンパー以外のプレーヤーか床に触れたときである。	
122	スロー・インをするとき、プレーヤーはラインを踏んでスロー・インをしてもよいが、ラインを踏み越えてスロー・インをしてはならない。	
123	主審と副審が同時にファウルを宣した場合、主審がレポートする。	
124	第4ピリオド残り2:01にボールがリングを通過し、決められたチームの選手がボールに触れるまでの間に1:59となった場合、ゲームクロックは即座に止めなければならない。	
125	A2がツー・ポイント・エリアからショットしたボールに、スリー・ポイント・エリアにいたB1がブロック・ショットをし、そのボールが最高点に達する前に触れた。そのうち、そのボールはバスケットに入った。この場合、A2には3点のフィールド・ゴールが認められる。	
126	Aチームがショットを打ちリングにあたった後、どちらのチームもコントロールがない状態でアウトオブバウンズとなり、再びAチームにスローインが与えられるとき、24秒計は24秒で再開する。	
127	パスのボールを受け取ったA4が、ショットではなくボールをバックボードに当て、はね返ったボールにほかのプレーヤーが触れないうちにそのボールを直接空中でキャッチし、床に下りてから、ドリブルを始めた。審判はA4のヴァイオレーションを宣した。	

128	コーチ自身のテクニカルファウルは、チームファウルには数えられない。	
129	ボールを持ったA 5が、フリースロー・ラインの近くから相手チームのバスケットに向かってまっすぐにドリブルをして、ボールを持ってジャンプし、ショットをしようとした。このとき、A 5は、ジャンプしたのち、一方の足がノー・チャージ・セミサークル・ラインに触れていた防御側プレイヤーB 4のトルソーに突き当たった。ノー・チャージ・セミサークル・ルールは適用されず、A 5にチャージングが宣せられる。	
130	A 1がB 1に対してオフェンスファウルをした。チームAのチームファウルが5回を超えていたため、審判はチームBにフリースローを与えた。	
131	ルーズボールを寝転がった状態で保持した後、ドリブルすることはできるが両足で立ち上がることはできない。	
132	A 3がプレー中に負傷した。15秒ほど様子を見ても変わらないので、A 6と交代をした。すぐにチームAのコーチがタイムアウトを請求した。タイムアウト終了後、A 3が回復をして試合に出れるようになったので、交代を請求し、審判は交代を認めた。	
133	最後のフリースローのとき、シューターと制限区域に沿って位置を占めているプレイヤーとも、フリースローシューターの手からボールが離れた瞬間に制限区域に入ることができる。	
134	A 3の最後のフリースローのとき、B 5が先に制限区域に入ってしまった。その後A 3が放ったフリースローがリングに届かなかったので、審判はフリースローのやり直しをさせた。	
135	A 3がショットしたボールが空中にある間に24秒のブザーが鳴り、そののちB 5がA 4に対してパーソナル・ファウルをした。しかし、シュートされたボールはリングにも触れず、バスケットにも入らなかった。審判は、B 5のファウルはなかったものとみなし、24秒ヴァイオレーションを宣した。	
136	第2ピリオド開始時のスローインはチームAだった。スローインをするまでに審判はチームAの5秒のヴァイオレーションを宣した。この時チームAは、ポゼッション・アローによるスローインの権利を失う。	
137	第4ピリオドの残り時間が“02:15”のとき、チームAのコーチが後半1回目のタイム・アウトを請求した。しかし、ゲームがなかなか止まらず、次に「タイム・アウトが認められる時機」になってこのタイム・アウトが認められたときには、残り時間が“01:45”になっていた。後半1回目のタイム・アウトを請求したときはまだ第4ピリオドの最後の2分間にはなっていないので、チームAは、第4ピリオドにあと2回タイム・アウトをとることができる。	
138	A 5のショットの動作中にB 4がパーソナルファウルをした。そのとき、A 5はバランスを崩し3歩めの踏切で放ったシュートが入った。審判は得点を認めず、チームAのスローインとした。	
139	ショットの動作中のA 4に対して、B 5がファウルをした。このとき、ショット・クロックの表示は残り18秒であった。A 4に2個のフリースローが与えられた。2投目のフリースローのボールがリングに触れたのち、A 5がリバウンドのボールをコントロールした。ショット・クロックは、14秒にリセットされる。	
140	ゲームを開始するジャンプ・ボールのとき、ジャンパーA 4がタップしたボールを、チームAのフロント・コートからジャンプしたA 5が空中でキャッチした。A 5は、空中にいる間に、そのボールを自チームのバック・コートにいるA 6にパスし、そのボールをA 6がキャッチした。審判は、「ボールをバック・コートに返すヴァイオレーション」を宣した。	
141	止まっている相手チームのうしろ（視野の外）でスクリーンしようとするプレイヤーは、触れ合いを起こさない限りどこでも相手の近くに位置を占めてよい。	
142	シリンダーの範囲は、前は手を普通にあげたときの手のひらの垂直面、うしろは尻の垂直面、両脇は腕と脚（足）の外側の垂直面である。	
143	審判が誤って、A 4に与えるべきフリースローを与えないでチームAのスロー・インでゲームを再開した。そのスロー・インの直後、審判が処置の誤りに気がついたので審判はA 4に訂正のフリースローを与えた。	
144	ゲーム開始予定時刻から15分過ぎても5人のプレイヤーがそろわず、用意がととのわなかったため、審判は没収ゲームとした。	
145	ファイティングの規定によるディスクォリファイング・ファウルは、チームファウルに数える。	
146	ボールをコントロールしているプレイヤー（ボールを持っているかドリブルをしているプレイヤー）を防御するときは、防御側プレイヤーは相手の速さと距離を十分に考慮して位置を占めなくてはならない。	
147	ゲームを開始するジャンプ・ボールのとき、サークルのまわりにいるジャンパー以外のプレイヤーは、トスアップされてからボールがタップされる間は動いても良い。	

148	B 4がA 4にファウル（パーソナル・ファウル）をした。チームBのチーム・ファウルはそのピリオド4回をこえていたが、審判が誤って、A 4にフリースローを与えないでチームAのスロー・インでゲームを再開してしまった。審判は、スロー・インのボールを受け取ったA 5からのパスをB 6がインターセプトし、B 6からのパスを受けてB 7がショットをしたが成功せず、そのリバウンドのボールをA 7がコントロールしたとき、処置の誤りに気がついてゲームを止めた。この場合、A 4が訂正のフリースローを行い、ゲームはチームAのスロー・インで再開される。	
149	ショットの動作中のプレイヤーに対して、防御側プレイヤーがその気持ちを乱そうとしてシューターに向かって大きな声を出したり床を大きく踏み鳴らしたりした場合は、審判は、そのプレイヤーに警告を与える。また、防御側プレイヤーのそれらの行為によってそのショットが成功しなかったと審判が判断したときは、審判は、ただちにその防御側プレイヤーにテクニカル・ファウルを宣さなければならない。	
150	バスケットボールは、それぞれ5人のプレイヤーからなる2チームによってプレイされる。それぞれのチームの目的は、相手チームのバスケットに得点すること、および、相手チームがボールコントロールすることや得点することを妨げることである。	
151	オフィシャルズ・テーブルの配置は、コート側から見て右から24秒オペレーター/タイマー/コミッショナー/スコアラール/A・スコアラールの順である。	
152	ボールには、床からボールの最下点までがおよそ1.80mの高さからコートに落下させたとき、ボールの最高点が1.20mから1.40mの間の高さまでにはずむように空気をいれる。	
153	スコアシートに示されたキャプテンであっても、プレイヤーとしてコートにいないときは、競技時間中に審判に説明を求めることはできない。	
154	ショットされたボールが空中にある間に、競技時間終了の合図があった。そのとき、ショットは成功したが、競技時間終了の合図があったので得点を認めなかった。	
155	第1ピリオドを始めるジャンプ・ボールのとき、両チームのプレイヤーが同時に触れてボールがアウト・オブ・バウンズになった。審判はジャンプ・ボール・シチュエーションとし、再度センター・サークルのジャンプ・ボールにて試合を再開させようとしたとき、Bチームからジャンパーを交代したいと申し出があった。交代するジャンパーがコート上のプレイヤーであったので審判はその申し出を認めた。	
156	AチームのプレイヤーがパスしたボールにBチームのプレイヤーの脚（大腿部）へ偶然ボールがあたったので審判はBチームにヴァイオリションを宣した。	
157	A2が故意に自チームのバスケットにボールを入れた。A2にテクニカル・ファウルが宣せられた。	
158	A4がまちがえて自チームのバスケットに向かってショットしようとしたとき、B5がA4にパーソナル・ファウルをしたが、自チームのバスケットにショットしても、ショット動作中のプレイヤーとは見なされないため、A4にフリースローは与えられない。	
159	スロー・インのとき、スロー・インされたボールがコート内のプレイヤーにふれる前にリングに触れた場合は、ゲーム・クロックが動いていないので、24秒計オペレーターは24秒計をリセットしてはならない。	
160	ショットの動作が始まったあとにプレイヤーがファウルをされた。ファウルをされたプレイヤーは、ボールを持ったまま3歩以上ステップをしてからボールをリリースし、そのボールがバスケットに入ってしまった。審判はバスケット・カウントを認め、さらに1個のフリースローを与えた。	
161	A3がショットをした。そのボールが空中にある間に24秒の合図が鳴った。そののち、リバウンドに備えたA2に対するB1のパーソナル・ファウルが宣せられた。そのファウルはBチームの2回目のファウルであった。ショットのボールはリングに当たらなかった。審判は24秒ヴァイオリションの成立が先と判断し、Bチームのスロー・インで再開した。	
162	第1ピリオド以外の各ピリオド（各延長時限も含む）を始めるスロー・インでボールがコート内のプレイヤーに触れる前にファウルやヴァイオリションが宣せられ、どちらかのプレイヤーにフリースローやスロー・インのボールが与えられることになった時はゲーム・クロックがまだ動き始めていないので、どちらのチームにもタイム・アウトも交代も認められない。	
163	審判は、オフィシャルズテーブルやベンチエリア周辺でなく、コートの周囲のすべての場所において、規則に従って判定や決定を下す権限を持つ。	
164	審判が判定をくだす権限は、ゲーム開始予定時刻の10分前にコートに出たときに始まり、ゲーム終了後、スコアシートにサインをしたときに終わる。	
165	延長時限のゲームクロックの表示が”02:00”であった。チームBのスローインでB 3の手からボールが離れる前に、A 1がB 2にファウルとなる触れ合いを起こした。審判は、ノーマルファウルを宣した。	
166	第1ピリオド以外の各ピリオド（各延長時限も含む）はピリオドを始めるためのスローインで、スローインされたボールにコート内のプレイヤーが触れたときに始まる。	
167	ゲームクロックの残り時間表示が0.2秒を表示しているところでチームAのフリースローとなった。この最後のフリースローのシュートが外れ、A 4がオフENSリバウンドを掴みシュートを放ちゴールに入った。審判は試合終了のブザーより先にショットが放たれたと判断し、その得点を認めた。	

168	コート内で両チームのプレイヤーがボールをしっかりと掴んだ状態のまま、A5がサイドラインを踏んだので、A5のヴァイオレーションを宣した。	
169	ボールがライブになるのは、ジャンプボールの場合はトスアップのボールがジャンパーにタップされたときである。	
170	ゲーム中に暴力行為を起こしたプレイヤーはファイティングの規定より、失格・退場が宣せられる。	
171	A5にアンスポーツマンライクファウルが宣せられた。ファウルをされたのはB5であったが、フリースローラインに立ったのはチームBのキャプテンであるB4であった。審判はそのことを1投目のフリースローが成功した後に気付いた。このとき、審判はチームBのコーチにテクニカルファウルを宣した。	
172	第3ピリオドの開始時、本来チームBに与えられるはずのオルタネイティブ・ポゼッションが誤ってチームAに与えられて始まった。チームAがそのボールを受けて得点した時に審判が気づきゲームを止めた。審判はチームAの得点は認め、改めてコート中央からチームBのポゼッションでゲームを再開した。	
173	A1がパスをしたボールを、プレスディフェンスをしていたB1が自チームのフロントコートからジャンプし空中でキャッチした後、着地する前にバックコートにいるプレイヤーB3にパスをしたので審判はヴァイオレーションを宣した。	
174	ショットするためにB4がノーチャージ・セミサークルの外からドライブを始め、ノーチャージセミサークルの外からジャンプをした。あらかじめノーチャージセミサークルをまたいで両足を置き止まってリーガルガーディングポジションを占めていたA3のトルソーに当たり激しく触れ合いが起きた。審判はB4にチャージングを宣した。	
175	タイムアウト中あるいはプレイのインターバル中に交代する時でも交代要員は、ゲームに加わる前にスコアラーに対して交代の申し出をしなければならない。ただし、ハーフタイム中に交代する際は申し出をする必要がない。	
176	タイムアウト中あるいはプレイのインターバル中に交代する時でも交代要員は、ゲームに加わる前にスコアラーに対して交代の申し出をしなければならない。ただし、ハーフタイム中に交代する際は申し出をする必要がない。	
177	延長時限の残り01:20でスローインが行われる場合、スローインするプレイヤーの手からボールが離れる前に防御側プレイヤーがパーソナルファウルを起こした場合は、そのファウルはアンスポーツマンライクファウルになる。	
178	第4ピリオドの残り01:20でスローインが行われる場合、スローインするプレイヤーの手からボールが離れる前に攻撃側プレイヤーがパーソナルファウルを起こした場合は、そのファウルはアンスポーツマンライクファウルになる。	
179	Aチームのプレイヤーがセンターラインをまたいでドリブルが終わり、その後パスをし	
180	チームメンバー内で、同じ色、同じ形のものであればユニフォームの下にTシャツを着用しても良い。	
181	キャプテンとは、コーチに指名されたそのチームの代表者である。	
182	スコアシートに示されたキャプテンであっても、プレイヤーとしてコートにいないときは、競技時間中に審判に説明を求めることはできない。	
183	コーチがゲームの最初に出場する5人のプレイヤーをスコアシートで確認した後にコーチが確認したプレイヤーと違う選手が出場したので審判は当該チームにテクニカルファウルを宣した。	
184	コーチがゲームの最初に出場するチームメンバーをスコアシートで確認した後、ゲーム開始後に氏名と番号が合致していないことが見つかった。審判は、誤った番号を訂正し、ゲームを再開した。	
185	プレイのインターバルはゲーム開始3分前から始まる。	
186	プレイのインターバルはジャンプボールで審判がサークルに入った時に終わる。	
187	1チームの2人のプレイヤーがサークルのまわりに隣り合わせて位置した時、たとえ相手チームの要望があっても一方の位置を譲る必要はない。	
188	トスアップされたボールはどちらのチームも掴んではならないし、それぞれ3回までしかタップ出来ない。	
189	スローインするプレイヤーが審判の指示した位置にいたので、そのプレイヤーから5m離れた位置からバウンズパスでボールを投げ渡した。	
190	B3からスローインされたボールが、境界線を越える前にコート内から境界線を越えて腕を伸ばしているB5がボールをコントロールをした。審判はB5にヴァイオレーションを宣した。	
191	チームBが前半3回目のタイムアウトを誤って請求した。テーブルオフィシャルもその誤った請求に気付かず審判に知らせてしまった。審判がタイムアウトの数を確認したところ、チームBの請求は規定の回数を超えていた。審判はチームBのコーチにテクニカルファウルを宣した。	
192	テーブルオフィシャルへ交代を申し出る場合、コーチやアシスタントコーチが交代要員に代わり交代の申し出をした。スコアラーはこれを受け付けなかった。	
193	チームAが誤って6人のプレイヤーを同時にコートに出場させてしまった。審判は直ちにゲームを止め、チームAのコーチにテクニカルファウルを宣した。	

194	スコアが50-40でチームAがリードをしていたが、チームAのプレイが出来る選手が1人になってしまった。審判はゲームを終了させ、チームBの勝ちとした。その時のスコアは20-0である。	
195	近接して防御されているプレイヤーとは、ライブのボールを持って1mよりも近い位置にいる相手のプレイヤーに積極的に防御されているプレイヤーをいう。	
196	ボールをコントロールしているプレイヤーを防御するときには、防御側プレイヤーは相手の速さと距離を十分に考慮して防御の位置を占めなければならない。	
197	コート内でジャンプしたプレイヤーには、元の位置に下りる権利がある。	
198	ゴールテンディング及びインタフェアの規定は24秒の合図が鳴った後でもすべて適用される。	
199	B2にヴァイオレイションが宣せられた。その罰則によりAチームにスロー・インが与えられ、スロー・インするプレイヤーA1へ審判がボールを与えた。A1はコートの外にいるA2へスロー・インのボールを渡した。そのスロー・インは5秒以内に終わったので、審判はそのままゲームを続けた。	
200	タイム・アウトを請求するとき『相手のフィールド・ゴールが成功したらタイム・アウト』と条件をつけて請求してきた。スコアラーはその請求を認めなかった。	